



R. I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2208号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352

例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210

会長 原 久一 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2278回例会

2020.6.11曇

司 会 矢岸克行君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 前田房江君

会長挨拶

会長エレクト 千葉慎二君

もう30年以上も前のことですが、多少読み書きはできても、英語を聞いたり話したりなど全くできなかった若造が突然アメリカに駐在することになりました。夜中に会議の夢でうなされたり英語で寝言を言うほど最初の半年は苦しかったものの、慣れも進み一たび要領を掴むと随分と会話が楽になりました。相手の言うことが解らない時には『解らないのでもう一回』と遮るか、首を傾げて解っていない旨を相手に伝えます。すると相手はもう一度ゆっくりと話してくれるか言い方を変えて話してくれます。私が話す時にも、相手の表情を見て通じていないと思えば言い方を変えて話します。しかし、電話で話す時は長いこと苦勞をしました。相手がああ言ったらこう言おう、もしこう応えられたらこう返そうなどと、立った2～3分の電話のために30分ほど事前に準備をしたり。コミュニケーションの基本の一つが、相手の目を見て話すということを痛感しました。

さて、聞かん坊のコロナちゃんのおかげで世の中大変なことになっています。ウィズ・コロナということで、当面の間は『新たな日常(ニュー・ノーマル)』に対応して行かねばなりません。テレワークだのズーム飲み会など、働き方が大きく変わると言う方もいます。ズーム、チームズ、グーグルミートなど耳慣れない言葉が溢れています。皆さんの会社ではテレワークやリモート会議などを実施しておられますか? 当社の営業会議は広いスペースに社員が散らばり、一つの大きなスクリーンを見ながらそれぞれが自分のタブレットから『ミラーリング』してスクリーンの画面操作をしながら発表するようになりました。リモー

ト会議では相手の表情が解らない訳ではありませんが、やはり距離感は遠くなりがちです。コミュニケーションのツールが格段に進歩する中で、お互いの意思疎通を確かめ合うというコミュニケーションの基本を、一層意識せねばならないなど感じるこの頃です。

“こんにちば、ようこそ”

ゲスト 内田満洋さん(赤池君・矢岸君のゲスト)
杉崎亮慈さん
(前田(博)君・千葉君・川名君・赤池君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	37/48	79.17%	40/48	83.33%
今回	42/49	85.71%	会員総数	49名

欠席者 秋元君、芦川君、板倉君、窪田君、柴崎君、西本君、桃瀬君

幹事報告

幹事 藤江康儀君

- ①宇江喜君・桐部君入会式
- ②6/25サヨナラ例会激励・慰労会(会員のみの例会とする)
- ③苗栗RCからのマスク贈呈に対して御礼文送付しました。

2019～2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

ロータリーは、世界をつなぐ

クラブ協議会

SAA

平出利之君

年間を通じてスムーズで効率的な例会運営ができたと思います。

但し、上半期は比較的に報告事項等が多いので、卓話者の時間がなくなっていましたので、改善が必要と感じました。

クラブ広報委員会

委員長 木村安紀夫君

活動計画

- (1) 例会内容を毎回まとめ、週報記載事項を事務局に報告
会合での写真撮影を行い、週報の充実を図る
- (2) 地域メディアに発信し、ロータリーの活動内容を広く地域
社会にアピールする
- (3) 東京オリンピックに向けて、地域活動、イベントなどの情報
を週報に記載
- (4) MY ROTARYの活用、会員の100%登録を目指す

活動内容の報告

- ・6月6日 公共イメージ向上セミナーに出席
ホームページのリニューアル、ガバナー月信の電子化
RI2620地区My Rotary登録状況報告
- ・8月1日 ロータリーの友月間にともない、ロータリーの友、ガ
バナー月信の紹介とともに、My Rotaryへの登録のお願い
実施
- アンケート調査実施
- ・9月26日 社会奉仕・親睦合同家族例会実施
10月6日～10月8日 ゴルフ同好会北海道遠征
10月16日～18日 台湾苗栗ロータリーの三島公式訪問など
写真にて週報に掲載、
ロータリーの活動とともに会員相互の親睦について記録させ
ていただきました
- ・その後、My Rotary登録について、お願いしてまいりまし
たが、具体的なフォローができず現在に至っております

活動内容についての反省と今後について

- ・広報委員5名の構成でしたが、他の委員会と重なる方や、転
勤で交代された方など相互の意思疎通が図れず、コロナ騒
ぎに突入し、下期は満足な活動ができませんでした
委員長として深くお詫び申し上げます
次年度の委員の方には、ぜひMy Rotaryの活用促進をお
願いしたいと思います

会員増強維持委員会

委員長 赤池克斗君

今年度は次々年度の50周年に向け50名を目標に進めてま
いりました。今年度は47名でスタートし、入会6名退会4名の
純増2名となり、次年度は49名スタートとなります。会員の皆
様と委員の方々のご協力に心から御礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、会員同士の接触
も限られた中、会員維持ができましたことも皆様の絶え間な
い友情のおかげだと重ねて感謝いたします。今年度末に多く
の若い世代の入会希望者に恵まれましたことは、次年度、
次々年度の持続的な会員増強・維持に繋がるものと確信
しております。継続的な入会候補者へのフォローが入会へ繋
がっておりますので引き続き会員増強に努めてまいります。

クラブ管理運営委員会

委員長 窪田 明君

この一年間皆さんに助けられてなんとか一年が過ぎました。
誠にありがとうございました。

親睦活動委員会

委員長 加藤憲勝君

委員会構成:委員長 加藤 憲勝 副委員長 鈴木 正二
委 員 諏訪部 敏之 室伏 勝宏 秋元 稔 和田 光雄
栗原 達治 芦川 哲也 板倉 千成
19年9月より 秋山 恭亮 西川 洋司 計12名

2.活動テーマ:「笑顔」

3.活動方針 :ロータリークラブの原点である親睦活動を推進
する。互いに交流し、友情を深めるため、笑顔あふれるクラブの
活動を心がける。会員家族も参加できる、魅力的な活動を企画
する。

4.活動報告

- 9月28日(土)親睦家族例会(例会日、例会場変更)
参加 36名 富士ハーネス見学(社会奉仕と合同)
ミルクランドBBQ 富士浅間大社 富士山世界遺産センター
- 12月19日(木)忘年家族例会(例会時間・例会上変更)
参加 85名(内会員44名)
- 6月27日(木)サヨナラ例会(例会時間・例会場変更)
コロナ対策のため、会員のみ、時間短縮として富嶽はなぶさ
にて実施予定
- テーブル会 年4回 3回終了 今月中に4回目完了予定
- 夜間例会に飲み物の提供 未了

予定していた夜間例会が自粛や通常例会に変更されたため
5.年間の反省

例会数が3月に減少したことで、打合せ機会が減り、メール、
FAXでの打合せが非常に重要になっている。また、3月以降は、
コロナウイルス対策で殆ど休会となり、事態の終息の予想も出来
ないため、サヨナラ例会開催の可否も含め、後手後手となってし
まった。スマイルの機会も減ったことから、予定とは大幅な乖離
が出てしまった。

一年間、皆様のご協力に深く感謝いたします。

ロータリー情報委員会

委員長 亥角裕巳君

活動報告

1新会員、スポンサーとともに勉強会を開催した。

【日 時】2020年1月16日(木) 【場 所】とんかつ蘭

【新会員】(敬称略)秋元 稔・板倉千成・森藤 賢・八木真樹・和田光雄・桃瀬弘明・西川洋司・秋山恭亮・澤田 稔

【参加委員】チャーターメンバー 関本照文

アドバイザー 遠藤正幸

会長 原久一

情報委員長 亥角裕巳

副委員長 矢野敏夫

2地区大会参加(11月3日～4日)

地区協議会はコロナウイルスにより中止

職業奉仕委員会

委員長 橋本裕子君

令和2年1月22日1時より静岡地方裁判所沼津支部において刑事事件の法廷傍聴を行った。出席者は25名。詳細は週報をお読みください。

社会奉仕委員会

委員長 川名正洋君

本年度の社会奉仕委員会は古屋英将副委員長、鈴木郁夫さん、三田明宏さん、和田光雄さん、森藤賢さんの6名で、期当初に掲げた基本方針と3つの活動計画に基づいて活動してまいりました。

3つの活動の報告としまして

1.見晴フェスティバルへの参加・協力においては前日からミセスロータリーの奥様方にもお手伝い頂き例年通り、豚汁、焼き鳥、ジュースを提供することができました。

2. ポリオ募金事業への協力は12月14日にイトーヨーカドーにおいて3クラブ合同にて募金活動をしました。

3. 盲導犬育成事業への協力は9月28日に親睦活動委員会と合同で家族例会として富士宮にある富士ハーネスを訪問して、盲導犬のデモンストレーションや施設を見学したあと原会長より寄付金を渡してきました。

また、3月18日にはさわじ事業所を訪問してCDGs(持続可能な開発目標)のピンバッチをメンバー全員分購入寄付をさせて頂きました。

これら活動を通して基本方針にあります会員個人が奉仕の理想を实践する機会を提供することができ、またこれら活動を新聞等メディアに掲載して頂くことにより、三島西ロータリークラブの認知度向上に繋がったと思います。

委員会活動が上半期に固まってしまう下半期の活動がなかったという反省点はありますが、会員皆様のご協力により社会奉仕委員会の役割を果たすことができたと思います。あらためて皆様のご協力に感謝申し上げます

国際奉仕委員会

委員長 佐野宏三君

年度当初に5つの活動計画を立てましたが、事業の実施日が下半期に集中していたため新型コロナの影響をまろに受けて、すべて中止になりました。台湾がコロナの封じ込めに成功したのは初動の速さです。これを感じたのは、1月28日苗栗交換中学生6名が来日直前にキャンセルになりました。この件について、静岡新聞とSBSテレビから電話取材を受けて30日朝刊に中止の記事が載り、翌31日テレビでも放映されました。2月4日ダイヤモンドプリンセス号が横浜港に着岸して日本中が大騒ぎになる前に手を打っていたのです。また苗栗RC創立49周年の記念式典に30名の参加申し込みを頂きましたが、こちらも式典が中止になり、10数名の方々にキャンセル料が発生してしまいました。

来年3月、苗栗RC創立50周年を迎えます。また交換中学生を当クラブから送り出しの月です。一刻も速くコロナの終息を祈念します。



ロータリー財団米山委員会

委員長 柴崎恵子君

ロータリー財団へ社会貢献金のご協力が難うございました。

[ロータリー財団]

○ 年次寄付 前期 \$ 2300 後期 \$ 1700

多額のご協力をいただきました。

2620 地区目標:寄付をしていない会員を0にする。

この目標を達成できました。

○ベネファクター

上期に1名、\$1000の寄付を加藤憲勝親睦委員長にご協力頂きました。

地区目標達成出来ました。加藤委員長有難うございました。

○地区補助金

R財団より地区補助金 ￥ 246,000 頂きました。

新型コロナウイルスの影響で苗栗からの交換研修中学生が来島できなくなり、地区補助金は返金致しました。

[米山]

○ 米山記念奨学会への寄付

前期 ￥ 220,000 後期 ￥ 200,000

ご協力いただきました。

○米山梅吉記念館

賛助金をクラブ予算から¥147,000 納入いたしました。

米山梅吉記念館創立50周年記念事業に対してクラブより¥147,000 寄付致しました。(内訳:会員49名×¥3000)

おめでとう

入会記念日 諏訪部(照)君、
前田(房)君、平出君
奥様誕生日 三田君
結婚記念日 諏訪部(照)君

スマイルボックス

- ◆鈴木(正)君、4月20日に二女に二男が生まれ、6人目の孫ができました。新型コロナの関係で見に行けたのは5月29日でした。子供は自分の代と同じ4人ですが、孫は6人で両親の10人に負けて、もう終わりです。
- ◆原君、アジサイの花が一段と美しく見える今日この頃です。
- ◆藤江君、加藤委員長に言われたのでスマイルします。
- ◆栗原君、6月7日(日)無事田植えが終了しました。
- ◆加藤君、6月25日、サヨナラ例会、今年度最後のスマイルを宜しくお願いします。

入会おめでとう



桐部君 宇江喜君

桐部 都宏(きりべ くにひろ)君

生年月日 昭和34年7月31日
事業所 株式会社 伊豆フェルメンテ
役職 代表取締役社長
推薦者 関本文彦君・矢岸克行君・桃瀬弘明君

宇江喜 敦司(うえき あつし)君

生年月日 昭和44年11月11日
事業所 (株)清水銀行三島支店
役職 支店長
推薦者 遠藤正幸君・佐野宏三君・亥角裕巳君

ROTARY NEWS

東アフリカでは、ソーシャルディスタンスが経済的に難しく「ぜいたく」とされる地域があります。ロータリークラブが連携し、これらの地域で手洗い場の設置や食料支援を行っています

ケニアのナイロビでは市民の80%近くが無認可居住区で生活しています。そこでは、日雇い労働者ら複数の世帯が一つ屋根の下で暮らす光景も珍しくありません。店員や建設作業員、家庭内労働者として稼いだわずかなお金で日々を生き抜くこれらの人たちは、狭い空間で8人もの人が料理や宿題、食事、睡眠といった生活を共にしています。

経済的に余裕のない多くのケニア人にとって、ソーシャルディスタンス(人との距離を空けること)は、言わば「ぜいたく」です。

「北米などで発生している新型コロナウイルスの大流行がケニアでも起これば、悲惨な結果となるでしょう」。ソーシャルディスタンスの難しさを指摘しつつ、こう語るのは、ムサイガ・ロータリークラブ会員のギーター・マネクさん(ロータリー財団管理委員エレクト)です。「予防策を徹底し、ウイルスに感染しないよう必死にがんばっています」

世界保健機関が新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)を宣言した直後、ロータリー第9212地区(エリトリア、エチオピア、ケニア、南スーダン)ガバナーのジョー・オティンさんは、全地区にまたがる対策チームを立ち上げました。ナイロビ・イースト・ロータリークラブのジョー・カマウさんがリーダーを務めるこのチームは、地区内のクラブと連携し、手洗い場の設置、職を失った世帯への食事の支援に加え、人びとに配布する防護具を購入するためのファンドレイジング(資金調達)を行いました。「まず何から始めようか、とカマウさんが尋ねたので、手洗い場の設置から始めよう」と答えました。対策チームメンバーのマネクさんはこう回想します。

マネクさんは、エチオピアとケニアでファンドレイジングの先頭に立ち、20日間で21,000万ドル以上を調達。さらに、集まった寄付に対してケニアのプライム銀行が同額を上乗せして拠出することを申し出ました。チームはこの資金で水タンク100台購入し、さらにタンク納入業者からも追加100台の寄付を確保しました。金属製の台に設置されたこの水タンクは100リットルを貯水でき、下部には真ちゅう製の蛇口が取り付けられ、せっけん置きも備えています。対策チームはこの手洗い場をキリフィ、モンバサ、ナイロビの各所に設置し、現在は国家衛生局と協力して次の支援地を絞り込んでいます。現在、トラックでタンクの交換をしていますが、当局は配管して水を補給する方法を検討しています。

(週報担当:木村安紀夫)